

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

施設栽培果菜類における育苗期～本圃初期の アザミウマ類、コナジラミ類の防除対策の徹底について

施設栽培のキュウリやトマトでは、アザミウマ類、コナジラミ類及びこれらが媒介するウイルス病の発生（表）が問題となります。これらの発生を抑えるには、施設内へ入れない、施設内で増やさないことが重要であるため、育苗期～本圃初期の防除を徹底しましょう。

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



アザミウマ類 コナジラミ類

記

1. 令和4年度の発生状況

- 1) 定期調査では、キュウリ、トマトにおいてアザミウマ類、コナジラミ類が、栽培初期から認められた。
- 2) これらが施設内で増殖し、11月の発生は平年より多くなった。
- 3) 一部の圃場でトマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ退緑黄化病が発生した（データ省略）。

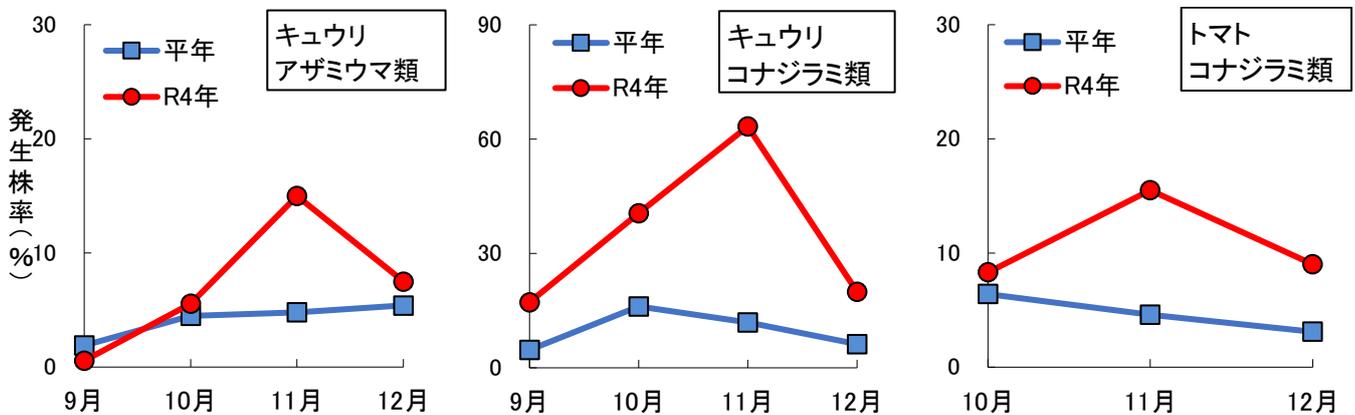


図 施設キュウリ、トマトでのアザミウマ類、コナジラミ類の発生推移

【表】 病害虫診断における主な虫媒伝染性ウイルス病の月別診断件数^{注)}

病名（媒介虫名）	8月	9月	10月	11月	12月
キュウリ黄化えそ病 (アザミウマ)	13	33	30	14	10
キュウリ退緑黄化病 (コナジラミ)	4	11	13	2	0
トマト黄化葉巻病 (コナジラミ)	0	13	4	2	1
トマト黄化病 (コナジラミ類)	0	1	1	3	1

・虫媒ウイルス病の診断件数は9～11月が多い。

注) 平成20年～令和4年の合計件数

2. 防除対策

【施設内への侵入防止（媒介虫・保毒虫を入れない対策）】

- ・施設開口部（サイド、天窗、谷および出入口等）に防虫ネット（0.4 mm以下程度）を設置する。
- ・アザミウマ類やコナジラミ類の発生源となる施設周辺部の雑草は、除去する。

【施設内での防除（媒介虫・保毒虫・ウイルス病を増やさない対策）】

①薬剤防除

- ・育苗期後半から定植時に、粒剤や灌注処理剤を使用する。
- ・圃場を確認し、低密度時から媒介虫の防除を徹底する。
- ・アザミウマ類、コナジラミ類ともに薬剤感受性の低下が問題となっているため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行うとともに、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。

②耕種的防除

- ・ウイルス病罹病株は伝染源となるため、早期に除去し、適切に処分する。



写真 キュウリ、トマトでのアザミウマ類、コナジラミ類が媒介するウイルス病

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

